

事業所職員向け 放課後等デイサービス評価表

事業所名 リあん嘉麻教室

評価日 令和5年3月31日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			活動・運動・遊びの場面が区別できる環境設定を行い、状況に合せて、随時、環境設定を変更している。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			人員配置基準通り職員を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	トイレは広いがスロープなどの設置はできていない。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			朝礼、終礼、月 1 回の会議・勉強会・ケース会議を実施し、随時、振り返りを行い改善に努めている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の意向を把握し、職員間で話し合いを行い、改善できるところは迅速に改善出来る様に対応している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページにて公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		外部の評価は受けていないが、意見を聞きながら改善に繋げている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎月、勉強会を実施し、専門分野・障がい特性、虐待防止・身体拘束について等の勉強会を実施している。 また、内部・外部研修にも積極的に参加をする様にしている。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			初回・更新月（年に 1 回）、変更があった場合など、アセスメントを取り直し、保護者の意向、ニーズに合せた個別支援計画書を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			児童用アセスメント評価シートを使用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			職員で月に 1 度、活動・運動プログラムについて話し合いを行い立案している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			活動内容がマンネリ化しない様に、児童の得意不得意を職員間で情報共有しながら課題設定を工夫している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日の課題設定は個々に合せた内容、休校日に於いては、集団レクリエーションや個

					別での取り組みなどの課題設定を行っている。
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			児童の状況や障がい特性に沿って、個別・集団で必要な課題を上げて個別支援計画書を作成するように努めている。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝礼を行い、前日の児童の様子、課題設定での振り返り等を行っている。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎後、終礼を行い、活動での児童の様子、保護者とのやり取り等の報告を行い、情報共有を行う。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			利用時、欠席時、在宅支援等の記録、保護者・学校からの情報共有を記録し、職員間での情報共有ができる様に努めている。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリング月、見直し月、更新月と職員でケース会議を実施し、モニタリング及び個別支援計画を作成している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			基本活動内容障害児学童あるべき姿として捉えており、活動に組み込む工夫をしている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児童発達支援管理責任者若しくは管理者が担当者会議に参加をしているが、事前の会議で職員と情報共有を行い、内容を再確認する様に努めている。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			学校と情報共有に関して、送迎の際に当日の様子や保護者への伝達事項等、連絡および情報交換をしている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		現在、医療的ケアをする児童の利用がない。 今後、医療的ケアの必要な児童の利用があった際は、関係機関及び主治医と連携を取っていく体制を作っていく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			他の児童発達支援事業所から放課後デイに移行の際は情報を提供していただき、法人内の児童発達支援事業所であれば就学前会議を行い情報の共有に努めている。 また、子育て支援課の保健師との連携も取っている。

連 携	②4	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	現段階では、学校を卒業して障害福祉サービスに移行したケースがない。 障害福祉サービスに移行するケースがあれば当然情報を提供する。
	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			支援センターとの交流はないが、研修などがあれば参加をし、今後も継続して研修等の参加をしていきたいと思う。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			学童クラブとの交流活動はない。
	②7	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○			地域自立支援協議会の定例会議があれば参加していきたい。
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳や送迎の際に、気になることは尋ねるようにしている。成長や頑張ったことはその都度、保護者に伝えている。
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			事業所での支援方法や成功した支援方法などを伝え、家庭と事業所で出来る限り同じ対応方法が出来る様な環境作り、連携を図れる様に努めている。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			重要事項説明書を使用し説明同意を頂いている。変更が生じればその都度、説明をしている。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			悩みや困ったことを、解決できるような支援につなげられるよう、関係機関と連携を取りながらサポート出来る様に努めている。
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	保護者間での日程調整が難しく保護者会は開催できていない。
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情受付窓口担当者・苦情解決担当者・第三者委員会設置苦情や相談に真摯に対応し迅速な解決に努めるようにしている。
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			月に1度ブログを更新し、また、行事などの様子を行事終了後に保護者にLINEで伝えている。
	③5	個人情報に十分注意しているか	○			同意を頂いていない児童の写真の取り扱いには十分に気を付け配慮している。
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			分かりやすい文書でまとめイラスト等を使用している。

	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			今年度も、コロナウィルス感染拡大防止の為、地域住民を招待する行事等を実施せず控えている。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員は研修を行い周知している
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			今年度は避難訓練で水害と地震を想定した訓練を実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待を防止に向けての取り組みの研修会を定期的に行ったり、外部研修への参加を実施している。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			危険回避行動と虐待との違いについての勉強会を実施、適切な対応を行う事、支援計画に明記しなければいけない事等の情報を共有し、万が一、危険回避をしなければいけない状況での身体拘束になった場合に間違った対応にならない様に周知徹底している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			アセスメントの際に食物アレルギーの確認を行い食事内容に十分注意している
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット、事故トラブルなど、状況を記録し、検証する体制を整えており、再発防止に向けて取り組めるようにしている。